

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
田辺市	300004	1	H20～H22	H20
活性化計画の区域				
中辺路活性化計画は211.95㎡で田辺市域の20.6を占め、特用林産物の生産による農山村地域の活性化に必要とされる生産活動の効率化、安定的な雇用の確保を図ることを目標として策定したものである。				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
地域産物販売量の増加	1,050 t	516.4 t	49.2%	

(コメント)
生シイタケの修品率の低下、市場の低迷による単価の下落により思うようにホダ木投入ができず全体の収穫量が伸びなかった。
改善策として、ホダ木製造過程の改善及び種菌会社の研究部の協力を仰ぎ新種菌の開発、ハウス方法の改善等を行っていたところ、平成22年度からは少しではあるが回復基調であったが、目標値の達成までとはいかなかった。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
生産機械施設 (特用林産物生産施設)	特用林産物生産施設 自動計量器1式 真空包装機1式		和歌山県シイタケ企業組合
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
和歌山県シイタケ企業組合	平成20年度	平成20年度	平成21年3月18日
事業の効果			
地域において目標と掲げる特用林産物の生産量の増加を図るため、事業主体への集出荷施設装置の強化により、生産量の向上を図るとともに、生産コストの低減を推進し、事業主体の収益性を高め、地域経済の活性化に資する。また、生産量の増加に伴う就労の場の確保による確実な地域への定着を促進する。			

3 総合評価

(コメント)
自動計量器、真空包装機により生産コストの低減を推進できたが、修品率の低下、市場単価の下落により収穫量が伸びず、目標達成には至らなかったが、企業努力による新種菌の改良やハウス方法の改善により回復基調にあるため、計画の改善・変更により達成に向け努力したい。

4 第三者の意見

(コメント)

特用林産物生産施設整備による地域産物販売量増加の目標達成できなかったが、新種菌の改良やハウスの改善などの企業努力は評価できる。

しかし、当初の目標を達成できるよう改めて目標を定め、確実に達成するために更なる努力が必要である。 田辺市中辺路地区農業委員 岡上 達

【 記入要領 】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広く記入すること。